

調 査 票

（回答機関名：研究開発グループ）

終了年度	実施機関	試験研究課題名
平成14年度	農業試験場	東北南部中山間畑作地帯におけるブロッコリー、イチゴの環境保全型栽培技術の開発 (イチゴ栽培における生物的防除を核とした環境保全型害虫防除体系の確立)
試験研究の目的・内容・結果		
<p>目的： イチゴ栽培における化学合成農薬使用削減のため、天敵を利用した生物的防除を核とした環境保全型害虫防除体系を確立する。</p> <p>内容： イチゴの施設栽培の重要害虫であるハダニ類およびアブラムシ類に対する生物的防除（天敵利用）体系を構築するとともにその効果を明らかにした。</p>		
利活用の状況		
<p>環境保全型農業に対する関心の高いイチゴ栽培農家では、化学農薬に対して抵抗性が発達しやすいハダニ類の防除対策として、生物農薬（天敵）資材は多くの地域で導入されているが、効果的な使用体系に関する情報が不足していた中で、本研究成果は、生物農薬の効果的な施用方法ならびに生物農薬の効果が見られない他の害虫防除のための化学農薬との効率的な体系防除確立に有効な対策として、広く普及、利用されている。</p>		
利活用にあたっての問題点		
<p>イチゴ栽培においては、多様な作型があるため、気象条件や害虫の発生状況によっては、生物的防除を核とした場合の害虫防除効果が安定しない場合がある。</p> <p>イチゴの生育期間中に発生する害虫の種類によっては、生物的防除に加えて化学合成農薬の施用も不可欠となるが、薬剤の選択、施用時期の判断が難しい。</p>		
利活用を促進する提案		
<p>今回の対象害虫以外の害虫も含めた総合的害虫管理技術の確立により、環境保全型農業が一層推進される。</p> <p>イチゴの施設栽培では多様な作型があり、また、イチゴで利用可能な生物的防除資材（天敵等）も数多く開発されつつある。これらの新しい資材と作型の組み合わせでの効果実証を試験研究および普及が協力して行うことにより、現地での一層の活用が期待できる。</p>		
外部評価アドバイザーのコメント		
<p>生産者への還元の方法、導入割合について期待します。</p>		